資料１７

大学コンソーシアムあきた平成２０年度事業計画（案）

■　理事会・運営委員会等の開催

規約、事業計画(提供科目の方針)、収支予算の決定、事業報告及び収支決算報告などのため、理事会・運営委員会その他必要な会議を開催する。

■　拠出負担金の収入

理事会決定の規約に基づき、構成機関の拠出負担金を収入する。併せて、秋田県補助金の交付申請を行う。

拠出負担金(大学)	@300,000×5校＝1,500,000	秋大、県大、教養大、ﾉｰｽｱｼﾞｱ大、看護福祉大
〃　(短大等)	@100,000×8校＝　800,000	美工短大、栄養短大、聖霊短大、日赤短大
計	2,300,000	聖園短大、秋田高専、放送大、職能短大

■　大学間連携の推進＜教育研究部会関連＞

1　単位互換協定の運営

秋田県における大学、短期大学及び高等専門学校間の単位互換に関する協定の改廃を要する事案に関する協議及び決定のほか、単位互換全般の運営を行う。

＜協定期間＞19.4.1～22.3.31　**＜協定参加機関＞**１１大学等

2　カレッジプラザ開講単位互換授業（コーディネート科目）

カレッジプラザを会場として協定に基づく単位互換授業を開講する。学生の興味や関心が高い分野の科目を、夏季休暇期間等を活用した集中講義形式で提供するなどコーディネート科目を中心に開講し、それに伴う科目提供大学等との調整や受講案内資料の作成及び広報、会場及び機器の設営などを行う。

＜提供科目数＞２科目程度

3　大学コンソーシアムあきた聴講生

カレッジプラザで開講される単位互換授業に、社会人を大学コンソーシアムあきた聴講生として受け入れる。なお、当該聴講生からは聴講料を徴収する。

4　職員研修講演会

構成機関事務職員の大学運営に関する能力をはじめ幅広い知識の涵養など一層の資質向上を図るため、職員を対象とする講演会や研修を企画実施する。

＜例１＞財務、教務等大学運営全般や地域貢献活動など、大学事務職員のスキルアップに役立つ分野をテーマにした講演会・研修会

＜例２＞秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会

■　地域貢献活動の推進＜地域貢献部会＞

1　連携公開講座

構成機関の知的資源を活用し、それぞれの特色を発揮しながら相互に連携し秋田県の地域課題の解決を図る、又は解決方向を示唆する公開講座を各大学等と参画テーマを調整して実施する。

＜テーマ設定＞

昨年度の取り組みテーマを引き続き実施

テーマ１ 秋田元気力講座～人が元気に、地域が元気に～

これからの秋田を活気のある、より元気な地域にしていこう！という視点で秋田県内の大学や短大の知的資源を集め、幅広い研究領域の視点から地域の活性化に向けた分析や提言を県民に提供するリレー形式の公開講座。

テーマ２ 明るくしなやかシルバーライフ～人生後半をすこやかに～

人生後半をすこやかに高齢化社会を前向きに生きる知恵を、秋田県内の大学や短大の各分野の研究者が講師を務めて開講するリレー形式の公開講座

＜開講方式＞

構成大学等がテーマ毎の担当講師を推薦し、それぞれの参画の視点を持ち寄ってワーキンググループを構成する

＜開講回数・時期等＞

テーマ毎に一定のまとまりのある期間内に開講を計画、概ね１０月以降から２月頃までの時期を目処とする。

＜開講場所＞

カレッジプラザのほか県北・県南地域での開催についても模索し、各大学等が主催する公開講座との共催などによる開講も検討する。

2　高大連携授業の実施

高校生が学問への関心を高め、あるいは進路決定の参考となるよう大学及び短期大学等の授業を受講する機会を設け、希望者応募式で高校生を募る。

＜実施時期＞前期：５～　７月実施、４月募集、週１回ペース／５週
後期：９～１１月実施、８月募集　　〃

＜会　　場＞カレッジプラザ、大館市、由利本荘市、横手市

＜科　　目＞

(1) 各大学等の特色を生かし、受講希望者の関心が高い科目を開講する。
(2) 実験・実習を伴う科目の場合は、５回のうちの数回を大学等施設で実施するなど、講義以外の体験についても重視して行う。

＜授業運営の工夫例＞

(1) 講義スタイルのほか、カレッジプラザで行う授業においても簡易な実験を取り入れるなどの工夫について科目提供大学等と協議し実施する。

(2) 科目担当講師の所属大学等から学生を参加させ、授業時間の一部を利用して高校生との意見交換や座談会の機会を設けるなど、実際の大学等における学びや学生生活について、イメージできる機会を設ける。

＜受講者アンケート＞

受講者アンケートの設問や自由記載欄により受講生の意見や感想を把握するようにし、担当講師に送付するほか、地域貢献部会において提示する。

3　社会人講座

県内高等教育機関の教育研究資源を地域に還元するために、主に社会人を対象に、体系的な知識の習得を目指す質の高い教育機会を、受講者にとって利便性の高い手法により提供することを目的とする。

この講座で提供される授業科目の内容は、既存の一般的な生涯学習サービスとの一定の差別化を図り、大きく「実学系」（知識の有用性を重視）、「教養系」（質の高い学びの楽しみを重視）という２つの軸を設け、大まかな類型を次のとおりとする。

○職業や各種社会活動に役立つ知識･技能に関するもの　　実学系
（経営、医療・福祉、教育、地域活動等）

○政治･経済･社会･科学技術の動向に関するもの　　中間
（経済・産業情勢、地域研究、国際関係等）

○文化、芸術、歴史など高度な教養に関するもの　　教養系

＜開講科目数＞　　２０科目程度

＜開講場所＞　　カレッジプラザのほか県北・県南地域での開講も検討

＜受講料＞　　受講者から１コマあたり４００円の受講料を徴収する

4　サイエンスプラザ

従来の講演会やシンポジウムの運営スタイルとは異なり、大学の研究者と市民の方々がアットホームな雰囲気で楽しく語り合う新しいスタイルのイベントとしてサイエンスプラザを実施する。テーマは理系分野に限定しない。

サイエンスプラザは、研究者と市民がひとつのテーマについて気軽に語り合う新しいコミュニケーションの手法であり、研究者と市民が同じ目線で語り合うことを目的とする。また、自由な形式で運営できるよう配慮し、例えば、映像資料のみならず、実体観察、実験などの手法も取り入れて参加者自らが見て触れる体験ができる方法なども取り入れる。

＜開講テーマ数＞５テーマ程度（複数回シリーズ可）

＜開講場所＞　　カレッジプラザ

＜受講料＞　　無料

＜その他＞　　近隣施設を利用した軽食を入れた形式も検討する(会費制)

5　中大連携授業

中等教育部門との連携による地域の教育活動への支援を図るため、中学校における「総合的な学習の時間」を活用して、各大学等の教員による企画授業を実施する。

○各大学等から授業提案を募集しとりまとめ「中大連携授業企画例」を作成
○秋田県内中学校への事業実施通知に「授業企画例」を添付し、実施校を募集
○実施希望校は講師派遣(企画授業実施)依頼書を提出する
○中学校の要望を踏まえた授業提供ができるよう実施計画等を担当講師と調整

＜実施数＞　３中学校程度
＜開講場所＞　平成２０年度は中央地区
＜費用負担＞　大学コンソーシアムあきたが負担する(中学校は負担なし)

6　各大学主催公開講座の開講推奨

各大学等が主催する公開講座や研究会の開催を働きかけ、カレッジプラザを会場に実施する。これにより、利便性の高い場所で大学の知的資源を県民に提供する教育サービスを一層活発化する。

7　地域貢献活動の広報

○ホームページによる講座情報などの随時提供
○情報提供連携公開講座など構成大学等が取り組む地域貢献活動を紹介するリーフレットの作成
○県民ニーズの一元的な対応窓口として各大学との調整等役割を担う

■　全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

例年開催される全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに参加し、教育研究、地域貢献活動等の情報交換を行う。

○第５回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
　2008年度開催地：愛知県名古屋市（第４回フォーラムで決定）

＜参考＞
○第６回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
　2009年度開催地の立候補：函館市高等教育機関連携推進協議会

■　年間の事業スケジュール

会議 / 出席 / 時期	理事会	運営委員会	教育研究部会	地域貢献部会
	学長等	委員、事務担当者	委員、事務担当者	委員、事務担当者
20年4月		前年度事業報告 決算審査 構成機関の異動 委員の異動報告		
5月	前年度事業報告 決算承認 構成機関の異動 理事の異動報告 理事懇談会		単位互換 前期授業	高大連携 前期授業
6月				
7月			単位互換 後期募集	後期高大連携 開講協議
8月				
9月			職員研修事業	連携公開講座 aテーマ
10月				高大連携後期授業
11月			単位互換 後期授業	連携公開講座 bテーマ
12月			来年度提案募集	来年度科目募集
21年1月			来年度事業計画	来年度事業計画
2月		来年度事業計画		
3月	来年度事業計画			

※社会人講座、中大連携授業、サイエンスプラザは年間を通して開講時期を調整する